

# 「初演」の楽章順で 「水上の音楽」演奏

09年に没後250年を迎えるバロック音楽の巨人ヘンデル。22楽章からなる管弦楽の名作「水上の音楽」を、初演当時のかたちとみられる楽章順で演奏するコンサートが18日、東京・築地の浜離宮朝日ホールで開かれる。

「水上の音楽」は18世紀初頭、ロンドンに居を構えたヘンデルが、国王ジョージ1世のテムズ川での船遊びの余興のために作った。従来は22の楽章を、調と楽器編成に応じて3つの組曲に分割して演奏するのが一般だった。ヘ長調とニ短調で、弦楽器とオーボエ、ホルンが主体の第1グループの10曲、ニ長調でトランペットも加わる5曲。ト長調、ト短調でフルートなどが加わる7曲の順だ。

04年になって、初演の翌年の1718年に筆

ヘンデルの名作  
18日、東京で

写されたと思われる総譜がロンドンの王立音楽家協会公文書館で見つかった。22楽章を含む手稿譜としては最古のもので、初演の際の曲順を示す可能性が高いという。

そこでは、第1グループは従来と同じだが、第2、第3グループの楽章が混ぜ合わされた状態だった。統一性を重んじた組曲形式より響きは多様で、変化に富んだ景色を楽しむ、船遊びの趣向にも合う。

主催するヘンデル・フェスティバル・ジャパン実行委員会の三澤寿喜委員長は「ヘンデルはとても实际的な人で、王様の船遊びを、より華麗に楽しめるよう工夫したのだらう。船遊びが終わってコンサートで演奏する段になると、当時一般的だった組曲形式が支持されたのでは」と語る。

ほかに「戴冠式（たいかんしき）アンセム」も演奏する。出演はエンリコ・オノフリ指揮、キャノンズ・コンサート室内管弦楽団&合唱団。

開演は午後7時。7500円、6500円。学生4千円。問い合わせは電話03・5216・7131（アレグロミュージック）。